

吊足場の解体作業をスムーズかつ安全に行う新技術 「片持ち式移動安全作業床」を開発・初適用

株式会社横河ブリッジは、橋梁架設時における吊足場の解体作業の安全性を飛躍的に向上させる「片持ち式移動安全作業床」（特許出願中）を開発しました。本技術は、国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所発注の「令和 5 年度米子道路米子大橋第 2 鋼上部工事」において、初めて現場施工に採用されました（写真 1）。



写真 1 施工状況

1. 片持ち式移動安全作業床の概要

従来の吊足場解体作業は、作業員が不安定な既設足場の上で作業を行う必要があり、墜落の危険を伴う高所作業が大きな課題となっていました。今回開発した「片持ち式移動安全作業床」は、橋の進行方向（橋軸方向）に 6m、幅方向（橋軸直角方向）に 20m という広大な作業床を構築し、安定した作業環境を確保することにより、スムーズかつ安全に解体作業を進めることが可能です。作業床の床材には、当社のアルミ合金製常設足場 cusa（キュウサ）を採用し、装置の軽量化を図りました。また、作業床に旋回機能を備えることで、橋脚を回避して次の径間へ移動することを可能にしました（写真 3）。



写真 2 足場解体作業時



写真 3 旋回移動時

2. 今後の展開

建設業界における熟練作業者の高齢化と担い手不足は、深刻な課題となっています。当社は、墜落・転落事故のリスクを最小化できる本装置を積極的に活用し、現場の「安全」と「働きやすさ」の両立を目指します。今後は新設橋梁の施工のみならず、既設橋の点検、補修・補強工事への適用も視野に入れ、橋梁インフラのメンテナンスにおける安全性向上に貢献してまいります。

～関連 URL～

道路・鉄道の構造物専門ニュースサイト R2SJ「横河ブリッジ 吊足場の解体作業をスムーズかつ安全に行うことができる片持ち式移動安全作業床を開発（2026 年 1 月 1 日）」

<https://r2sj.net/civil/17998>

以 上